

第4次城陽市総合計画について考える

市民まちづくりワークショップ かわら版 第5号



第5回市民まちづくりワークショップを開催しました！

➤ 第5回市民まちづくりワークショップを平成28年4月22日（金）に、男女共同参画支援センター「ぱれっ」とJOYOにて開催致しました。今回は、第4回に引き続き「城陽市を良くする100の提言」について、3グループに分かれて議論頂きました。

— 当日のスケジュール —

14:00～ 開会
本日の予定及びワークショップの進め方
14:30～ 議論のポイント
14:35～ ワークショップ
「城陽市を良くする100の提言について②」
16:30 閉会

～ワークショップでの議論のポイントについて小島先生からアドバイス～



今日の皆さんの役割として、自身の専門分野の知見を活かすとともに、専門外の分野についても一人の市民として違った視点からの意見を求められています。ここに集まっているのは城陽市民の中のごく一部の方になりますが、子どもや働き盛りの方など、この場にはいない方の意見についても思いを巡らせて意見を出して頂くと、議論に広がりが出てくるのではないかと思います。また、まちづくりに関して、インフラに代表される社会資本だけではなく、人と人とのつながりに着目した「社会関係資本」という言葉があります。住民同士の協働を通して、資源をうまく活用していくことが重要であり、社会関係資本が豊かなのが城陽の強みだと思います。行政が何をするのかと同時に、市民としてどう実現していくかを議論して頂きたいと思います。

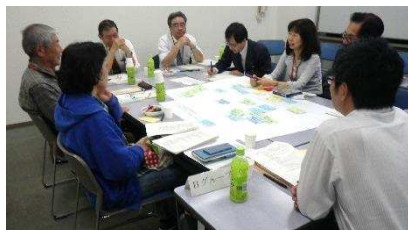
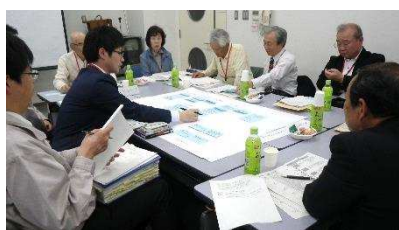
～城陽市を良くする100の提言について、意見交換を行いました～

■意見の概要

まちづくりの目標	分野	意見の概要
“未来輝く”にぎわいと交流が生まれるまち	農業	<ul style="list-style-type: none"> ・他都市のPRに勝るようベンチマーキングを行う ・学校給食に地元農産物を取入れていることを、地元の人知らない。情報共有を図る
	商工業	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と企業とがコラボして、新たな特産品を開発する ・地元学生を対象とした、地元企業（伝統産業）の見学が必要
	観光	<ul style="list-style-type: none"> ・地元産のいも、イチジク、梅を使った料理等の体験ツアーを企画する ・観光ガイドの育成、観光大使の認定、観光検定の実施、一日遊べる充実した観光マップの作成を行う
いのち“生命輝く”安心とふれあいがひろがるまち	防災	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会内で声かけや誘導しあえるようルールづくりを行う ・行政と自主防災組織が災害弱者に対する対策を確立する ・行政は講習会情報を発信、市民は講習会に参加する ・自主防災組織の組織化を推進する
	防犯	<ul style="list-style-type: none"> ・向こう三軒両隣を意識し、転入者とのつながりなど、互いに情報を共有する ・町内を散歩する人に「防犯」腕章をつけてもらい、犯罪者が入りにくい地域をつくる
	健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・市と市民が共同でウォーキングマップを作成し、モデルコースの紹介や歩道の整備を行う
	子育て	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世帯が社会で活躍できるよう、保育などのサポートを充実する ・二世帯、三世帯住居の促進支援を行う ・帰る場としての魅力の創出。そのための雇用の確保
福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢世帯、一人暮らし世帯のICTによる見守り体制の構築 ・認知症患者やその家族をサポートする ・高齢者の活躍の場づくり ・高齢者と子どもたちの交流機会の創出（市の祭りがない） 	

■意見の概要

まちづくりの目標	分野	意見の概要
“笑顔輝く”愛着と創造力を育むまち	歴史・文化・生涯学習	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体が一体化するようなイベントを行政、学校、地域団体で実施する ・故郷に愛着をもってもらう
	スポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・男女だれでも参加出来るスポーツの普及を推進する
	学校教育	<ul style="list-style-type: none"> ・デイサービスの施設を活用した子どもの場所づくり ・学校の空教室を提供し、地域の子どもと大人が集う場所にする ・学校に畑を作り、生徒さんに野菜作りを楽しんでもらう。城陽には農の達人が多い ・各施設が放課後（夏休み等の長期休暇も）に園庭グラウンド、体育館、ホールを開放し、球技などの遊び場を確保する ・各学校がボランティアを募集して、花壇作りや手入れをする ・登下校の見守りを行う
“生活輝く”自然と調和した快適なまち	基盤整備・住環境	<ul style="list-style-type: none"> ・現在はどこが市の中心かわからない。行政、居住者の協力で市の核をつくる ・JR城陽駅、近鉄寺田駅への連絡を良くする ・年寄り、子どもが散策できるまちづくりを進める（行政、市民の協力） ・個人商店が潰れていく。身近な買物場所の整備を行う ・空き家をどう活用するか、対策を進める
市民が主役、対話と協働でつくるまち	地域コミュニティ	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会だけでなく、地域のコミュニティの選択肢（趣味の集まりなど）をつくとよいのではないかと ・市民一人一人が広告塔になる（市の良さを市外でPR）、郷土愛が全てをつなげる ・地域の祭り等のイベントカレンダーを制作して、自分の地域だけでなく隣接地域の行事にも参加しやすい環境をつくる ・分野別の人材バンク、地域でさまざまな技術や技能をもった人を登録
	協働	<ul style="list-style-type: none"> ・（高齢化と共に）ボランティアの人数が少なくなってきた。自分の身の丈にあった力を出してほしい ・市民が主体的に取り組んでほしいことについては、適切に必要な情報を発信していくことが必要である ・コミセン活動を通して、地域の交流を図り、明るい地域社会を構築する



➤ 各グループからの発表後、小島先生に講評いただきました。

今日の議論を聞いていて感じたこととして、1つ目は、市民が地域活動に参加したいと思っている一方で、どう参加したらよいか迷っている人がたくさんいることです。そのため、気軽に参加できるしかけを作っていくことが大切だと感じました。2つ目は、“ふるさと城陽”に対して誇りをもっている人が多いことが印象に残りました。市内に住んでいる人にも、外の人にも、もっと城陽の良さを知ってもらいたい。裏を返せば、自然や人がもっているいろんな力をしっかりと受け止めていることを実感しました。

～第6回は平成28年6月開催予定です～

次回ワークショップでは、行政でとりまとめた基本計画骨子案を用いて、施策の内容や、市民の役割について議論をおこないます。

【お問合せ先】

城陽市役所 企画管理部 企画調整課

TEL:0774-56-4041 FAX:0774-56-3999 E-mail:kikaku@city.joyo.lg.jp

